

新規採用者 獲得 大作戦

2023年度新規採用者の 全員組合加入を達成しよう —単組執行部、職場委員の皆さんへ—

自治労 総合組織局

1 新採対策を進めよう

4月に新規採用者を迎える準備は、大丈夫ですか？自治労は、組織強化の「1丁目1番地」として、新採の組織化を掲げています。2023春闘方針でも、春闘期の取り組みとして各県ごとに重点単組を指定し、県本部と一緒に組合加入率を向上させる具体的な行動を呼びかけてきました。

この間、コロナ禍にあって、3年間ほど当局主催の研修や組合の歓迎会などの取り組みが難しく、懸命な取り組みの一方で結果として組織化が進まない実態にあります。今年は、コロナ禍が終了したとは言えないまでも、日常が取り戻されつつある中での新採対策となります。

感染拡大には注意しつつ、準備段階から実行段階へとシフトチェンジしながら、「ようこそ自治労へ」「ようこそ労働組合に」という気持ちで、新採対策に単組や職場の持てる力を動員し、多くの仲間を迎え入れようではありませんか。

2 原因の把握

新採対策が思うように進まない原因の一つにコロナの影響もありますが、そのほかの要因について、単組執行部がしっかり把握しておく必要があります。

まず、「入口」の状況です。「当局の研修時間内、もしくは終了後に組合説明会を行っている単組が一定数ある」と各種担当者会議などで確認しています。「これまで実施してきた説明会の流れや内容を見直していない」「組合の説明に止まり加入届を記入させていない」「新規採用者の後ろむきな発言に全体が影響されている」など、説明会で組合加入させる状況を作り出

せていないのではないか？という視点で点検することが重要です。

また、説明会ではなく、個別説明（オルグ）によって加入させているという単組では、「書記任せにしているか」「資料を渡すだけになっていないか」「1回で諦めていないか」と、「なぜ加入につながらないか」という見直しをする必要があります。まだ執行部で対策会議をしていないところは、自分たちの実態について把握し、議論するところから始めてください。

3 対策を立てる

当局の新採研修についてはコロナ禍で開催が見送られてきましたが、再開となる自治体なども多く想定されます。組合説明の時間を短く、あるいは時間外に、といった当局からの提案の前に、組合の側からしっかり従前どおりの時間を確保するよう主張してください。すでに時間が短い単組においても、労働条件に関わることを説明しているといった「必要性や正当性」を主張しながら時間を確保することが重要です。

さらに、説明会では本部や県本部から提供される資料を活用しながら、できるだけ単組の役員や活動といった具体的な「顔が見える」組合の説明を心掛けるとともに、労働組合がなぜ必要なのか、労働組合の職場における役割について、説明会に参加する役員が「自信と確信」を持って新採に話しかけることができるようになっておくことが最も重要になります。

これは、説明会当日だけではなく、説明会で加入に至らなかった場合においても、個別にオルグしている単組においても、以降の対応にとって有効です。そのために、①組合が勝ち取ってきたこと、②説明する役員が組合をやっているよかったと思うこと、③組合が

職場でどういう役割でどう機能しているのか、など単組や県本部、自治労全体といったそれぞれの段階で組合の重要性について「自分の声」にして再確認することも必要です。

4 ポイント

「段取り八分、仕事二分」という言葉があるとおり、新採対策には準備が重要です。

表 新採対策の主な準備

1	今年の新規採用者の人数。職種の内訳。社会人（経験者）採用は何人。
2	当局の説明会がある場合には、時間場所。流れ。全体なのか、分割か。
3	組合説明会に動員できる役員、若手や外部の支援。資料の内容、数。
4	個別オルグであれば、その分担。職種、職域。日程感。難航した場合の対応。
5	競合組合がある場合には、競合の予想される動き。
6	首長や議員など、有利に使える人材はいないか。

これら主なものから、特に加入に後ろむきと言われる社会人むけに「応答集」を用意しておくことや、最初から説明役を決めておくこと、社会人経験が初任給にどう反映されているかの個別説明会の用意、といった細やかな準備も、単組規模や採用実態にあわせて検討が必要です。

また、近年、組合費以外に「親がダメと言っている」「公務員予備校の説明」「自治労の政治方針」など多様な理由で加入を渋るケースも報告されています。本部としても応答集の作成を進めますが、事例の報告を引き続きお願いします。

どのような理由を並べても、職場の先輩や上司の一声が効かない新入職員はいません。

執行部の一部に新採対策を任せるのではなく、組合にとって最も重要な取り組みとして位置付け、執行部はもちろん職場の組合員、管理職など組合の先輩も含め、総動員であたる姿勢（方針）と準備が、現在の困難な状況を克服する術といえます。

5 事例の紹介から「使ってみる」へ

これまで、熊本県本部熊本市職の新採むけ動画や宮崎県本部宮崎市職の説明会を工夫することで加入増につなげたといった先進事例、隣の単組の説明会に実際に参加して学び、その場で加入届を出してもらうことに成功した宮城県本部登米市職の例、模擬組合説明会を重ねて開催した沖縄県本部の取り組み、などについて組織担当者会議や新採対策会議、「自治労通信」などで紹介してきました。

自治労本部が提起しているのは、「マネ」してみよう、ということです。すべての上達に、先達の模倣は効率的で効果的です。

6 まとめ

新採対策にとって、執行部が備えておくべき、必要なこと／ものがあります。

まず、新採を加入させるためのツールです。動画やパンフレット、パワーポイントなどさまざまなグッズや好事例が提供されています。ぜひ、県本部や本部にお問い合わせください【次ページ参照】。

次に、スキルです。説明会での要点と新採のツボをついた説明には、繰り返し練習することや他の単組の説明を聞いてみる必要があります。オルグに回ったときに、どう言い返すのか、聞き流すのか、話題を変えるのか、には準備も訓練も必要です。

最後に、最も重要なことは、マインドです。説明者やオルグ担当者が、労働組合という存在や自らの単組の果たしている役割について、「自信と確信」を持って説明する気持ちがあるのとないのでは、結果は全く違います。そのためにも、日常から組合員の声を聴き、真摯に当局と向き合う、結果を組合員と共有する、という基本的な組合としての日常活動に取り組むことです。その上で、労働組合は「正しい」「必要である」と新入職員に説明すること、「加入届を出すこと」「組合に加入すること」は本人や職場の仲間にとって、将来の職場にとっても大切なことだ、と言いつつ必要です。

参考資料

新規採用職員の組合加入を進める 情報宣伝物・学習資料のご案内

自治労本部では次のような情報宣伝物や学習資料を作成しています。
ご活用ください。

じちろうネット掲載の宣伝物・学習資料等

これらの資料は、自治労に加盟する単組のみ閲覧可能なホームページ「じちろうネット」に掲載されています。「じちろうネット」の閲覧には専用のIDが必要となりますので、閲覧を希望する単組は県本部までお問い合わせください。

新採加入促進活動の宣伝物



「じちろうにしよう」(A3サイズ)

「WITH YOU」(A4サイズ三つ折り)



組合説明会用パワーポイント (A) (B)

新採加入リーフレットサンプル「ようこそ〇〇市役所へ」

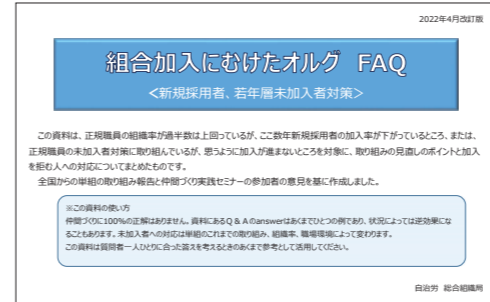
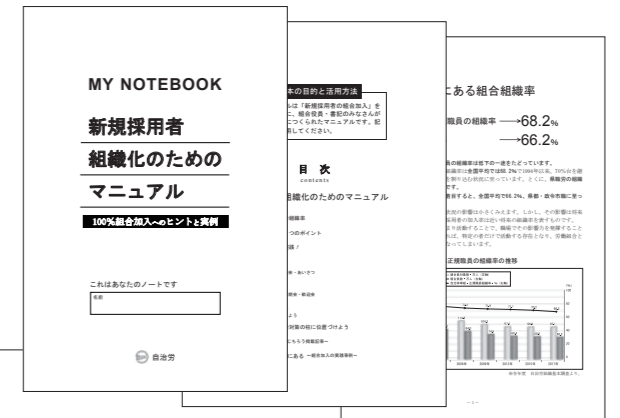


執行部などの学習資料



単組事例に学ぶ
(自治労通信2023年冬号掲載記事)

新規採用者組織化のためのマニュアル

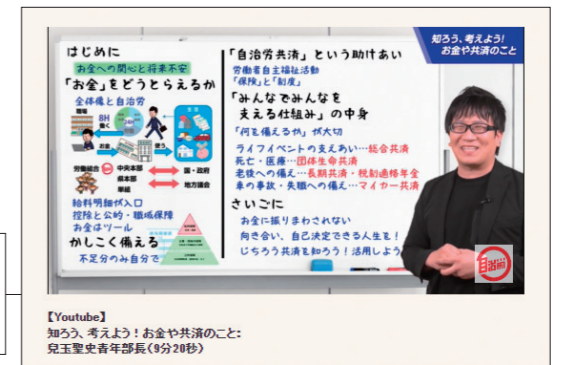


組合加入に向けたオルグ FAQ

じちろう共済学習資料 動画

知ろう、考えよう! お金や共済のこと

(動画) URL <https://youtu.be/kh-Bo76wA1U>



有料学習教材



What's 自治労

* 取り扱いは自治労サービス・出版センターです。
定価 500 円 + 税 TEL 03-5213-5485

<https://www.jichiro.gr.jp/press/>

